

生活単元学習の授業づくりに関する研究

—各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方—

特別支援教育室 水野由美 山田亜紀 越智宣和
 田中百合 玉乃井美穂
 研究協力者 愛媛大学大学院教育学研究科教授 榎木暢子

【要約】

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編では、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科の目標や内容を取り扱い、それに準拠した評価の実施を目指すとの方針が明確に示された。そこで、生活単元学習の授業づくりにおける、各教科等の目標と学習活動の関連や学習評価の在り方について検討し、研究員及び研究協力者の協力を得て「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイドブック」及び解説動画を作成した。

【キーワード】 生活単元学習 各教科等とのつながり 学習評価の在り方 ガイドブック

1 研究の目的

平成29年4月告示の特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領では、指導と評価の一体化の必要性が明確に示された。「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価が重要な役割を担うことが示されており、授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けることが求められている。

知的障がい者である児童生徒に対して教育を行う特別支援学校の教育課程には、「各教科等を合わせた指導」という指導の形態がある。平成30年3月改訂の学習指導要領解説各教科等編に、「各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる」「（略）各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である」と追記された。これによって、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科の目標や内容を取り扱い、それに準拠した評価の実施を目指すとの方針が、明確に示された。しかし、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が、全国の知的障がい特別支援学校を対象に行った学習評価に関する調査（令和2年）では、「各教科等を合わせた指導」における学習評価や「個別の指導計画における個人の評価と各授業における学習評価との関連」が、課題として挙げられている。

「各教科等を合わせた指導」の中でも生活単元学習は、社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を体験的、実際に学ぶことを重視しており、知的障がいのある児童生徒に対して有効な指導の形態として、特別支援学校や特別支援学級の教育課程に位置付けられてきた。しかし、各教科との関連や学習評価の在り方についてまとめたものは少ないのが現状である。

そこで、生活単元学習の授業づくりにおける、各教科等の目標と学習活動の関連や学習評価の在り方について、ポイントや具体的な手立てを明らかにすることが、生活単元学習の授業づくりの指針となるのではと考えた。また、令和2・3年度研究「知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究—生活単元学習の授業づくりを通して—」に基づく研究を行うことで、実態把握から学習評価まで、授業づくりの一連の考え方を具現化することができると考える。その考え方をまとめた資料を作成し提供することで、特別支援学級や特別支援学校での授業づくりを支援することができると考え、2年間継続の研究として取り組むこととした。本年度は、その2年次である。

2 研究の内容

(1) 1年次の取組（概要）

ア 「ガイドブック」の原案の作成

生活単元学習における、各教科等の目標と学習活動の関連や学習評価の在り方について検討し、「ガイドブック」の原案（以下「ガイドブック（案）」という。）を作成した。

イ 研究員への意見聴取及び原案の改善

研究員として、県内の小・中学校（各2校）で生活単元学習を実施している知的障がい特別支援学級担任4名（各校1名）に依頼し、「ガイドブック（案）」の内容について、アンケート調査とウェブ会議システムを利用した意見交換会により、意見聴取を行った。また、研究員の意見及び研究協力者の助言を基に、「ガイドブック（案）」の改善を行った。

ウ 「ガイドブック（案）」の概要

授業づくりの過程を10に分け、必要に応じて更に細分化した。概要は表1のとおりである。「ガイドブック（案）」は、授業づくりの過程を左側に、その手立て等を右側にまとめて示した（図1）。また、全体像が把握しやすくなるよう、全過程を1枚にまとめたガイドシートを作成した（図2）。

表1 「ガイドブック（案）」の概要

1 実態把握／2 目標	6 単元設定
3 学級集団の実態の整理	7 単元計画
4 教育課程の確認	①子どもの思考の流れと重視する学びの姿
a 小学校特別支援学級（B表）	②学習活動及び各教科等の内容・評価の観点
b 小学校特別支援学級（C表）	③具体的な学びの姿
c 中学校特別支援学級（B表）	8 授業の目標及び評価規準
d 中学校特別支援学級（C表）	9 授業計画
e 特別支援学校	a 重視する学びの姿
5 年間指導計画	b 学習活動
①教材の検討	c 支援の手立て
②教材間のつながりの検討	d 環境設定
③取り扱う教材の精選と単元化	10 学習評価
④主とする教科や主たる学習活動の検討	a 授業の目標の評価
⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の概算	b 単元目標の評価
⑥各教科等の総時数の確認	c 教科の目標の評価

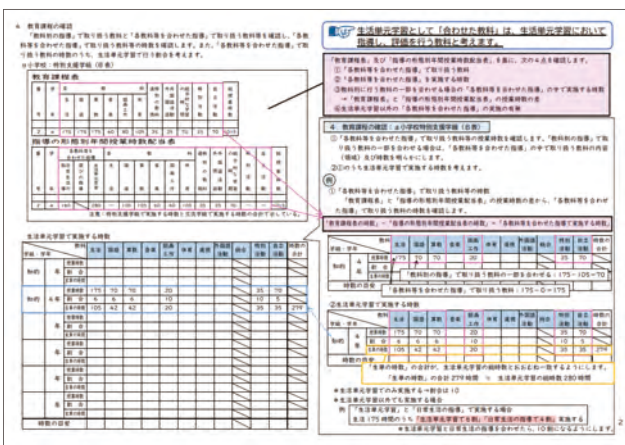


図1 「ガイドブック（案）」（一部抜粋）



図2 ガイドシート

(2) 2年次の取組

ア 実践モデル事例の作成

(7) 実践モデル事例の作成

実践モデル事例は、「ガイドブック（案）」の課題点を見付け改善すること、考え方やまとめ方の参考となる資料とすることを目的として、知的障がい特別支援学級を想定し「ガイドブック（案）」の過程に沿って作成した。想定した学級及び単元は次のとおりである。

【小学校】知的障がい特別支援学級（2年、4年、6年各1名 計3名）

単元名「ゴムロケットで遊ぼう」 全15時間

【中学校】知的障がい特別支援学級（1年、2年、3年各1名 計3名）

単元名「ボランティア大作戦②」 全35時間

(4) 実践モデル事例の作成を通して得た気付き

年間指導計画を立てる過程において、教材の案を出す際に「地域資源」を書き出せると、より幅広い教材の案を考えやすいたことが分かった。そこで、「5 年間指導計画：①教材の検討」の様式を変更することとした。また、「5 年間指導計画：⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の概算」の過程には、年間をふかんして考えることに難しさがあったため、説明を工夫することとした。

イ Excel補助シートの作成

1年次に研究員から、「児童生徒一人一人の学習目標段階を把握するのが大変だ」「時数の計算が必要な過程では、数値を入力すれば自動計算されるようになるとよい」との意見があったことから、授業づくりを行う際の作業がしやすくなるよう、Microsoft Excelで補助シートを作成した。

(7) 学習目標段階Check表

「1 実態把握／2 目標」の過程において、学習指導要領に示されている、各教科の小学部から高等部までの指導内容が、資質・能力や項目、段階ごとに整理されているチェック表を作成した。本チェック表は、各教科シートと一覧表シートで構成した。各教科シートで、指導項目や内容ごとに目標段階をチェックすると自動集計し、一覧表シートに反映される。一覧表シートは、各教科の指導項目ごとの目標段階や、それを基とする資質・能力の総合的な目標段階が一覧になるようにした（図3）。なお、各教科シートの作成に当たっては、熊本大学教育学部附属特別支援学校の「指導内容確認表（教材掘りおこしプロジェクト）」を参考にした。

生活 指導内容確認表		0 年 氏名		
項目	内容	小学部 (段階)		
		1	2	3
ア 基本的 生活 習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動 □ (ア) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動すること。 □ (イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。			
イ 安全	危険防止 / 交通安全 / 災害対策 / 防災 □ (ア) 身の周りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組みようとする。こと。 □ (イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。			
ウ 日課・ 予定	日課 □ (ア) 身の周りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。こと。 □ (イ) 簡単な日課について、関心をもつこと。			
エ 遊び	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動 □ (ア) 身の周りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぶこと。			

教科	目標及び内容	小学部 (段階)		
		1	2	3
生活	知識及び技能			
	ア 基本的生活習慣			
	イ 安全			
	ウ 日課・予定			
	エ 遊び			
	オ 人との関わり			
	カ 役割			
	キ 手伝い・仕事			
	ク 金銭の扱い			
	ケ きまり			
	コ 社会の仕組みと公共施設			
	サ 生命・自然			
	シ ものの仕組みと働き			
	思考力、判断力、表現力等			
ア 基本的生活習慣				

図3 学習目標段階Check表

(4) 合わせた教科と時数の確認シート

「4 教育課程の確認」の過程において、生活単元学習で取り扱う教科とそのおおよその年間実施時数を、確認及び検討する際に活用できるシートを作成した。自校の「教育課程表」、「指導の形態別年間授業配当表」等を基に数値を入力すると、自動計算されるようにした（図4）。

授業時数：「各教科等を合わせた指導で実施する時数」＝「教育課程表の時数」－「指導の形態別年間授業配当表の時数」															
学級	学年	教科	生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育	特別の教科 道徳	外国語 活動	総合的な 学習の時間	特別活動	自立活動	時数の 合計	
			教育課程表												
	年	学級													
		交流													
		授業時数	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
		割合													
		生単の時数	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		教育課程表													
		学級													

図4 合わせた教科と時数の確認シート（一部抜粋）

(ウ) 年間指導計画作成シート

「5 年間指導計画」の過程において、「①教材の検討」「⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の概算」「⑥各教科等の総時数の確認」に活用できるシートを、それぞれ作成した（図5）。各単元の時数や主とする教科に係る時数を入力すると、年間の生活単元学習の時数や合わせた各教科等の時数が自動計算され、確認しやすくなるようにした。

①教材の検討

学校によって異なる場合は、「標準教材表」のように、標準学年を示しておくことで、整理しやすくなります。

「学年行事」を書き込んでみましょう。

「季節」に関することや「季節行事」を書き込んでみましょう。

校外学習や交流など、一学期の学校の生活に関する事項を書き込んでみましょう。

地域資源（自然環境、観光資源、人的資源）や活用できるイベントなどを書き込んでみましょう。

⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の概算

注意！「主とする教科」

単元が数か月にまたがる場合

単元名	4月				5月				合計
	生	国	算	特	生	国	算	特	
新入生をお迎えしよう									
運動会を頑張ろう									
おにぎりを作ろう									
季節の手紙を書こう									
いろいろな仕事と働く人を調べよう									
日本の祭りや世界の祭りを比べよう									
学習発表会を成功させよう									
クリスマス会を楽しもう									
新年の誓い									
合計	12	2	1	2	7	2	2	2	10

⑥各教科等の総時数の確認

注意！ 特別活動を合わせる場合は、特別活動に係る特別活動を合わせていない場合は、特別活動

単元	時数	教科			特別活動	自立活動	合計
		生活	国語	算数			
新入生をお迎えしよう	12	3	2	1			
季節を見付けよう	16	5	4	2			
運動会を頑張ろう	7	2	2	2			
オリジナルマップを作ろう	24	9	3	3			
ありがとうを伝えよう	24	9	4	3			
季節の野菜を育てよう	28	10	6	6			
おにぎりを作ろう	24	10	5	5			
季節の手紙を書こう	10	2	3	3			
いろいろな仕事と働く人を調べよう	48	20	6	8			
日本の祭りや世界の祭りを比べよう	24	10	3	3			
学習発表会を成功させよう	12	4	3	2			
クリスマス会を楽しもう	12	3	3	2			
新年の誓い	10	3	3	2			
合計	280	98	40	41			
特別活動の時数（主として取り扱う時数）							
学校種		105	42	49			
小学校							

図5 年間指導計画作成シート（一部抜粋）

ウ 授業実践

(ア) 研究員及び授業実践の方法

研究員として、県内の小・中学校（各1校）で生活単元学習を実施している知的障がい特別支援学級担任2名に依頼した。小学校の研究員は研究員として2年目、中学校の研究員は1年目である。実践を進めるに当たり、小学校においては研究員が立てた計画を、中学校においては研究員と特別支援教育室の室員とが話し合いながら立てた計画を、特別支援教育室で「ガイドブック（案）」に沿っているか確認した後、研究員が各所属校にて授業実践を行った。なお、「ガイドブック（案）」に沿った授業づくりが可能かどうかの検証は、小学校の授業実践を対象とする。

(イ) 授業実践の内容

【小学校】実践期間：令和5年5月～9月

単元名「「世界一おいしい森のパン屋」をつくろう」 全12時間

【中学校】実践期間：令和5年5月～7月

単元名「校外学習に行こう」 全11時間

(ウ) 授業実践の検証

小学校での授業実践を通して、「ガイドブック（案）」に沿って授業づくりを行うことで、難しさはあるものの、各教科等とのつながりのある計画を立てることや、教科の学習評価をすることが可能であることが分かった。

エ 研究員への意見聴取及び考察

研究員への意見聴取を行い、得られた意見を基に考察を行った。なお、小学校の研究員は2年目であり、「ガイドブック（案）」作成時から本研究に関わっているため、様々な視点からの意見が得られた。また、中学校の研究員は1年目であるため、初めて「ガイドブック（案）」を見て授業づくりを行う立場からの意見が得られた。

(7) 意見の収集

令和5年5月から11月までの実践期間中に、対面やメール等での研究員の発言を収集した。得られた意見は表2のとおりである。

表2 研究員の意見（一部抜粋）

項目	研究員の意見
■「1 実態把握 / 2 目標」について	○全ての教科の目標段階を、学級担任一人でチェックすることは難しい。教科担任に聞きながらでないといけない。
■「5 年間指導計画」について	○図の中の矢印が複雑で、混乱する。読み解くのが難しい。
■「6 単元設定」について	○資質・能力の三つの柱で目標を立てたことがないので、どのような目標にしたらいかが分からない。「子どもの思考の流れ」から、目標として取り上げたいものを選ぶ方法だと考えやすく、子どもの姿がイメージしやすい。 ○学級全体の目標を立て、子ども一人一人についてどこまで達成してほしいか、何を意識してほしいかなどを検討することで、個別の目標は考えられる。
■「7 単元計画」について	○子どもの思考の流れについて、実践モデル事例や補助資料1（「授業等でねらいたい「三つの学び」の姿」）を見ながらであれば、何となく考えることができた。より具体的に選択肢を挙げてもらえば、その中から選ぶことはできる。 ○「主とする教科の内容及び評価の観点」では、今まで、教科の内容を意識したことがなく、想像が付きにくいので、学習活動と教科の内容を結び付けることが難しい。 ○補助資料1と見比べながらであれば、当てはめて考えることができた。 ○単元全体を通して、所々ではあるが、振り返りはできそうだ。 ○先に考えるよりも、実施後に振り返る方が考えやすい。
■その他	○「ガイドブック（案）」の考え方の流れを知っておくことは大切であるが、初めて特別支援学級を担当した先生方が見て理解することは難しい。研修会等で学びたい内容である。 ○実践モデル事例や選択肢があれば考えられる内容もあるが、全てを一人で考えることは難しい。 ○補助資料1を見ると、授業を計画するとき、具体的な姿が思い描きやすかった。様々な実態の児童がいるため、具体的過ぎてもすぐわないし、抽象的過ぎてもイメージしにくい。補助資料1の例は、学級の児童に当てはめて考えやすかった。 ○全体的に情報量が多いので、もう少し絞った方が欲しい情報が得られやすいのではないかと。 ○「こんなに作るものがあるのか」という思いになる。 ○理論よりも、明日どんな授業をしたらいかがということが知りたい。 ○生活単元学習は楽しい。担任している児童に適した学習形態である。

主な意見として、内容理解の難しさや情報量の多さに関するものがあった。内容理解の難しさがある事柄でも、具体例や選択肢があること、対面で説明してもらうことが理解につながったという意見もあった。

また、「授業実施後の振り返りに使える」「ガイドブック（案）」に示されている内容を知っておくことは大切である」「研修会等で学びたい内容である」との意見もあった。

(4) アンケート調査による意見聴取

アンケート調査を実施した期間は、令和5年10月16日から11月5日である。授業づくりの過程ごとに「考えやすい」「難しい」の選択式で回答を求め、「難しい」と選択した場合のみ、その理由を記述式で求めた。アンケートの様式（一部抜粋）は次のとおりである。

「ガイドブック（案）」に即した授業実践に関するアンケート

■「1 実態把握／2 目標」について

考えやすい

難しい

*難しいと思われたところを、具体的に御記入ください。

■「3 学級集団の実態の整理」について

考えやすい

難しい

*難しいと思われたところを、具体的に御記入ください。

アンケート調査により得られた研究員の意見は、表3のとおりである。なお、自由記述の内容のみを示す。

表3 アンケート結果

項目	研究員の意見
■「1 実態把握／2 目標」について	○各教科の目標段階については、本当にこれで合っているのか悩んだ。 ○項目がたくさんあり過ぎて、読むのに時間が必要だ。
■「3 学級集団の実態の整理」について	(なし)
■「4 教育課程の確認」について	○交流及び共同学習が入る時間割との兼ね合いで、煩雑になることもあり、授業時数として起こすことに難しさがある。しかし、考え方として持つておくことが大切だ。 ○教育課程の編成に関しては、何が正しいのかよく分からない。周囲に教えてくれる人がいない。
■「5 年間指導計画」について	○特別支援学級担任になって間もない教員が、単級で立案するのは難しい。「ポイント」や「教材間のつながり」の考え方（例）等が分かりやすいが、経験とセットになって理解が深まるのではないか。 ○引き出しを増やすために、実践モデル事例が参考になる。 ○時数の概算については、「4 教育課程の確認」と同様、数値としてきっちり出すことは難しいが、考え方として持つておくことは大切だ。
■「6 単元設定」について	○令和2・3年度の研究成果物も、参考になった。 ○子どもの実態、単元観、単元目標を文字に起こして作成する時間がない。
■「7 単元計画」について	○「主とする教科の内容及び評価の観点」について、悩んだ。学習指導要領で繰り返し確認したが、これで本当に合っているのか自信が持てなかった。学級担任によって様々な見方や捉え方の違いがあるだろう。 ○学習活動は考えられたとしても、重視する学びの姿の視点を言ってもらってようやく分かったので、自分で考えることは難しい。 ○どの姿を重視して考えるとよいか分からない。 ○学習指導要領を読み込んで自分のものにしておく必要がある。自分の勉強不足を痛感した。 ○補助資料が分かりやすかった。
■「8 授業の目標及び評価規準」について	○経験が必要になる。一人で考えるのが難しい。 ○合っているのか自信がない。 ○どこを重視して評価をすればよいか分からない。 ○毎時間、評価はできない。

■「9 授業計画」について	○経験が必要になる。一人で考えるのが難しい。 ○合っているのか自信がない。
■「10 学習評価」について	○経験が必要になる。一人で考えるのが難しい。 ○合っているのか自信がない。一番悩んだ。 ○一番悩んだ。 ○例文を見ないとどこを評価してよいか分からない。 ○「1」～「10」に細かく分かれているため、見ていると何をしたらいいのか分からなくなる。

主な意見としては、「5 年間指導計画」での時数の概算、「7 単元計画」「8 授業の目標及び評価規準」での目標設定や評価規準についての難しさに関するものがあつた。これらの難しさについては、令和2・3年度の研究成果物や実践モデル事例、室員による口頭での説明があることで、理解しやすくなったとの意見もあつた。

(ウ) 考察

実践中に収集した研究員の意見及びアンケート結果から、内容理解の難しさが主な課題であることが明らかになった。「ガイドブック（案）」に示している生活単元学習の授業づくりの考え方を理解するためには、実際に児童生徒の実態や教員の実践経験に当てはめながら考えることが必要になり、それが難しさにつながっていると考える。さらに、今までの授業づくりの一連の方法と異なることも多く、生活単元学習の授業づくりの経験の浅い教員にとっては、より難しさを感じるものになっていると考える。

また、イメージを持ちやすく参考となるよう、具体例を多く示していたが、「内容が煩雑になり必要とする情報を得にくい」「具体例を読むために時間や労力を要する」「具体例を理解するためにもある程度の知識や経験を必要とする」などの課題が生じたため、内容理解の難しさにつながったと考える。「4 教育課程の確認」では、「ガイドブック（案）」を見ながら書き込み、確認できるように表に空欄を設けていたが、結果として、情報量の多さにつながっていた。さらに、表に書き込めるようにしていたことで、「教育課程を考える過程である」との誤った印象を与えており、その過程で何をするのかが、正しく伝わっていなかった。

これらのことから、「ガイドブック（案）」全体を通し、各過程において何をするのかを明確に示すとともに、より読みやすくなるよう、情報の整理や紙面の見やすさの工夫が必要である。さらに、研究員から「説明されると分かる」との意見があつたため、授業づくりの考え方がより分かりやすくなるよう、伝え方の工夫も必要である。そのほか、「難しさがあるが、（理論を）考え方として持つておくことが大切だ」との意見もあることから、「ガイドブック（案）」に示している授業づくりの考え方を変更することなく、分かりやすく伝えるための方法を検討することが必要である。

オ 「ガイドブック（案）」の改善

研究員の意見及び研究協力者の助言を基に、「ガイドブック（案）」の改善を行った。主な改善点は、次のとおりである。

- 情報の整理や紙面の工夫
- 解説動画の作成

(7) 情報の整理や紙面の工夫

情報の整理や紙面の工夫を行った。同一ページ内に、重複する説明があつたため、情報を精選し直し、左側に授業づくりの過程を、右側にポイントや具体例を用いた説明をまとめた（図6）。また、「4 教育課程の確認」で、書き込みながら確認できるように設けていた表の空欄部分を削除し、考え方の説明に必要な箇所だけ残した（図6）。そうすることで、紙面に余裕ができたため、レイアウトを整えるとともに、表の高さや文字の大きさなどを、より見やすく変更した。さらに、「5 年間指導計画：②教材間のつながりの検討」の表では、複数の具体例を示すために多くの矢印を使っており、複雑になっていた。そこで、具体例の示し方を変更した（図7）。また、複数の具体例を示していた過程では、理解しやすく見やすい資料になるよう、説明に必要なものに絞って示した。本文

から削除したものは、補助資料とすることで、具体例の数を確保した（図8）。

「4 教育課程の確認」は、「教育課程を考える過程である」との誤った印象を与えていたため、項目名を「4 合わせた教科と時数の確認」と変更した。

図6 情報の整理と紙面の工夫①

図7 情報の整理と紙面の工夫②

図8 情報の整理と紙面の工夫③

(4) 解説動画の作成

「ガイドブック」を理解するための補助となることをねらい、解説動画を作成した。研究員から「口頭で説明されると分かる」「研修会で学びたい内容である」との意見があったため、生活単元学習の授業づくりの経験の浅い教員だけでなく、経験のある教員にとっても、自分の考えを整理するために活用できると考える。さらに、「ガイドブック」を読んでみよう、生活単元学習の授業づくりに取り組んでみようと思うきっかけになることも期待する。

解説動画は、授業づくりの過程に沿って、全10本作成した。それぞれの動画は、気軽に視聴することができるよう、15分から20分程度にした。理解が深まるよう、動画の始めに学習指導要領に示された内容やポイント、その過程の目的、流れを示してから解説に入った。解説の後、イメージを持てるよう、身近な事柄に置き換えて説明するなどの工夫をした（図9）。また、「ガイドブック」を確認しながら動画を視聴できるよう、該当ページに二次元コードを掲載した（図10）。

学習指導要領



- ・実際の生活から発展し、子どもの実態及び興味・関心を踏まえたもの
- ・個人差の大きい集団にも適合するもの
- ・生活上の望ましい態度や習慣が形成され、現在や将来の生活に生かされるもの
- ・目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動をも含んだもの
- ・学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるもの
- ・一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのままとりのあるもの
- ・いろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるもの
(学習指導要領解説各教科等編 一部抜粋)

年間指導計画作成のポイント



Point

子どもに関すること

- 子どもの実態や興味・関心に応じる
- 子どもの思考のつながりがある

地域に関すること

- 地域の物的資源や学校の特色を生かす
- 生活年齢に応じた地域の人的資源を生かす

年間指導計画の作成の流れ

- ①教材の検討 ①-1案
- ①教材の検討 ①-2絞り込み
- ②教材間のつながりの検討
- ③取り扱う教材の精選と単元化
- ④主とする教科や主な学習活動の検討
- ⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の検討
- ⑥各教科等の総時数の確認

①教材の検討 ①-2絞り込み

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式 遠足		交通安全週間		避難訓練	修学旅行 宿泊学習	学芸発表会		マラソン大会		卒業式
季節・ 季節行事	春 桜	こどもの日 母の日	梅雨 田植え 父の日	夏 七夕 水遊び 暑中見舞い	お月見 敬老の日	秋 稲刈り ハロウィン	落ち葉 動物感謝の日	クリスマス 年賀状	冬 お正月	節分 雪 バレンタイン	春 ひな祭り
生活上の 課題	新学年	町探検	地域交流	夏休み 買い物				働く人 動物交流	書初め	校外学習	進学・進級 春休み

 教科別の指導で取り扱う教材や、適当な時数、月内の時数などを基に絞り込むと…

②教材間のつながりの検討

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	例2：④学習活動や成果を活用・応用することが可能										
季節・ 季節行事	野菜の栽培				暑中見舞い						
生活上の 課題	夏野菜を収穫する。				育てた夏野菜をスタンプにしてはがきに模様を付け、そのはがきで暑中見舞いを書く。						

メニュー（単元）



つながりは？
発展できる？

	1学期				2学期			3学期			
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	メニュー（単元）										
生活上の 課題	ルーを変えたらできるよ										
偶発的	<ul style="list-style-type: none"> 具材の大きさが似ている 途中まで工程が似ているよ どっちも揚げるよ 										

図9 解説動画「5 年間指導計画：①教材の検討～③取り扱う教材の精選と単元化」（一部抜粋）



図10 二次元コードの掲載

3 研究のまとめと今後の課題

本研究では、生活単元学習における、各教科等の目標と学習活動の関連や、学習評価の在り方について検討し、研究員の協力を得て「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイドブック」及び解説動画を作成した。

今後は、本研究成果をまとめ、本センターのホームページに掲載し、必要に応じてダウンロードして活用できるようにしたいと考えている。また、今後、本センターで実施する各種研修講座へ反映させ、県内の特別支援学級や特別支援学校における生活単元学習の授業づくりの充実にに向けた支援を行っていきたい。

主な参考文献

- 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）』2018
- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』2018
- 文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」2016
- 石塚謙二『知的障害教育における学習評価の方法と実際 子どもの確かな成長を目指して』ギアース教育新社 2011
- 武富博文・増田謙太郎『特別支援学級・特別支援学校 新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫』ギアース教育新社 2020
- 田村学『学習評価』東洋館出版社 2021
- 名古屋恒彦『「各教科等を合わせた指導」と教科の考え方 知的障害教育現場での疑問や懸念にこたえる』教育出版 2022
- 名古屋恒彦『確かな力が育つ知的障害教育 「各教科等を合わせた指導」Q&A』東洋館出版社 2022
- 千葉県総合教育センター「研究報告第452号 知的障害教育における各教科等の指導目標の設定及び学習評価を行うためのツールの開発」2022